

ビッグデータ活用による事故防止対策推進事業について

目的

ひとたび事故が起こると社会的影響の大きい健康に起因した事故や過労運転に起因した事故を防止するため、運転特性の改善や体調管理等に関する情報について、ビッグデータとして集積し、ドライバーの体調を加味した事故防止運行モデル（体調予報）を構築する。

体調予報について

◆ 概要

デジタル式運行記録計等のデータを活用し、ドライバーの体調を予測することにより、点呼時にドライバーの疲労をはじめとした身体状況の客観的な判断や、配車時にドライバーの体調を鑑みた設定等を可能とする。

◆ H28年度実施内容（実証実験：5事業者6営業所、238名）

① モデルに必要なデータの収集

- デジタル式運行記録計のデータ（運転時間、走行距離、休憩時間等）
- 運転者の体重・身長、睡眠状況

② 収集したデータの分析

- データの相関、疲労への影響
- 体調情報（疲労度）の数値化
- 予測精度の検証

③ 評価

- 予測精度向上のための考察
- アンケート、ヒアリングの実施
- 使用上・運用上の課題の抽出 等

まとめ

○体調予報では、ドライバーの主観に基づく疲れ度合いと、予報の一致率を確認

○予報精度結果

【完全一致率】53.4%

（目標：60%以上）

○予報精度を上げていくため、多様な運行パターンでのデータを得る必要がある。

○生体・健康情報等との連携について更に検討を進める。

○管理者の負担感を極力減らす必要がある。